

平成29年度市政懇談会 開催結果概要

- 日時 平成29年6月28日（水）午後6時～
- 会場 コア大空
- 出席者 23人

〔市長より説明（別途資料参照）〕

○将来を見通したまちづくり

- ・ 釧路市の台所事情
- ・ 釧路市の人口推移
- ・ 雇用を生み出す産業の強化
- ・ 子どもを生み育てたいという希望をかなえる
- ・ 「世界一級の観光地」を目指して
- ・ 阿寒湖アイヌ施策の推進
- ・ 安心な暮らしをつくる
- ・ 人口減少に対応した地域をつくる
- ・ 釧路市まちづくり基本構想等の策定について

〔事前調査による地域からのご意見等〕

■不良空き家対策について

近隣に平屋と2階建ての空き家が2軒あります。毎年台風が来るたびにトタン屋根がはがれそうになり、その都度消防署に連絡をし、処置してもらっています。町内会としても所有者を探す努力はしていますがわかりません。市役所の方で所有者を探し、解体するように指導していただけないでしょうか。

【都市整備部長】

該当する空き家につきまして、担当者が現地を確認し、所有者を調査いたしました。平屋建ての空き家につきましては、所有者が判明しましたので、解体などの改善を行うよう、文書により指導いたしました。

2階建ての空き家につきましては、所有者が死亡しており、相続人も存在しない状況のため、市としましても、指導する相手がない状況のため、対応が難しい状況にあります。

全国的にもこのようなケースが多くあり、現在、国において相続人がいない場合における有効な対応方法等を検討しているところです。国の検討結果を参考に、釧路市でも所有者不在の空き家の対応を検討してまいりたいと考えています。釧路市では空き家等の問題解決に向けて、民間団体と協定を締結し、相談体制の充実を図っています。また、今年度は、老朽化が著しい空き家住宅を除却する際の補助制度を創設するなどの取り組みを行っています。今後も、市民の皆さんが安全・安心に暮らせるよう、対策を行ってまいりたいと考えております。

■ 消火栓の設置について

町内会の地域内に消火栓がない。設置をすることはできないか。

【消防長】

消防水利は、国の基準に基づいて整備していますが、同地区は現存の消防水利の有効範囲に含まれない地区である事は認識しています。また、釧路市にはこの様な地区が数箇所あり、消防としては、これらの地区に対して、消防の機動力を考慮して防御体制を執っています。今後も、消防水利の有効配置に向け、関係機関と協議しながら鋭意進めてまいります。

● 意見交換

【参加者 A】

石炭火力発電所の建設にあたって、釧路市としてはどのように対応していくのでしょうか。

また、ふるさと納税については、市税 21%のうち、どの程度含まれているのでしょうか。

【市長】

石炭火力発電所については、平成 31 年の稼働に向けて進めているところがあります。この火力発電所は、KCM（釧路コールマイン）の石炭を 20 万トン使用する予定となっております。また、二酸化炭素対策として、混焼型木材も使用していく予定です。

【総合政策部長】

ふるさと納税につきまして、全国各自治体が厳しい財源状況の中で、地域の特産に対して寄附していただき返礼品をお渡ししているものであります。多数集まっている自治体、そうでない自治体さまざまであり、今話題となっているものであります。

釧路市の現状としましては、過去 3 カ年で見ますと、平成 26 年度が 115 件・937 万 7,000 円、平成 27 年度が 437 件・4,265 万 4,000 円、平成 28 年が 1 万 2,799 件・2 億 9,387 万円でした。

ふるさと納税については、市議会でもいろいろと議論がなされました。当時、平成 26・27 年度は、10 万円などの高額な寄附をいただいた方に対して、水産物の加工品をメインに寄附額の 3 割程度の返礼品をお渡ししていました。ですが、釧路地域にはさまざまな資源がありますので、その資源を地域の情報として発信していくことも重要ではないかということで、昨年 11 月から、返礼品の拡充をしました。その際、市民、事業者の皆さまにご参加をいただいて、地域の特産としてさまざまなものを出していただき、また、2～3 万円程度の寄附からでも特産品をお選びいただけるようにしました。その結果、平成 28 年度は 3 億円程度のふるさと納税が集まり、釧路地域の特産品が評価されていることだと思っております。平成 29 年度には、5 億円の寄附を目標としております。市税が厳しい状況ではありますが、ふるさと納税でも補えるようにし、地域のさまざまな取り組みを維持していけるよう、今後も活用していきたいと

考えております。

【市長】

経営的なことを行政が行うのはなかなか難しいところがあります。根室市では、返礼品としてカニを中心としており、30億円の寄附があるはずです。

手法としては、ふるさと納税の他にも、特産品を売って稼ぐというやり方もあります。色々な議論があり、ふるさと納税はビジネスとして考えられるようになっていきます。現在、ふるさと納税に関しては、民間会社に委託しております。売上増に向けて、どのように取り組んでいけばいいのかが課題となっておりますが、平成29年度は5億円の税収を目指していきたいと考えております。

【参加者B】

先日、白糠町から釧路市に転居された方がいまして、その方は星が浦に住んでおります。その方が、市立病院に行こうとしたときに、城山から教育大学を通過して、工業高校のところの5差路まで行ったそうです。そうなると、市立病院へ向かう道へは入れません。釧路市民の方は、教育大学を超えたところを右に曲がればたどり着けるのを知っているのですが。案内の看板をつけてもらえれば、誰もが分かるようになるのではないかと思います。

また、私は毎年1月5日の新年交礼会にお伺いをしております。新年交礼会では、前段に合唱や、ヒートボイスのギター演奏、日本舞踊があつたりします。その次に国歌演奏、釧路市の歌があり、その次によりやくメインである釧路市長からのお話があります。このとき、会場の全員がずっと立ち続けています。新年交礼会には、音別町、阿寒町、阿寒湖畔からも、釧路市のために来ています。ご年配の方もずっと立ち続けています。今年も、30分ぐらい立ち続けたかと思えます。この中で、省くもの、前後できるものはないかと考えましたら、前段の日本舞踊などは、乾杯をしてからでもいいのではないのでしょうか。新年交礼会は、市長のお話と、会場の方々が新年交礼ということでご挨拶することを楽しみで来ています。市長の今年のお話の中で、「飛ぶ鳥落とす勢いで」というお話がありました。手話もよかったです。ですが、立っているということは非常に腰に負担がかかりますので、老人の方への思いやりということでご提案させていただきます。

昨日、釧路少年鑑別所の所長からお話がありました。全国の鑑別所の所長が法務省に集まって会議があつたそうです。そのときに、歴代の釧路の所長さん方が「釧路はすごくいいところだ」ということをおっしゃっていたそうです。釧路市民みんなが釧路を良い街にしたいと思っています。

【市長】

市立病院への看板につきましては、鶴ヶ岱公園通の交差点に1つ、市立病院の看板が出ています。市民の方は慣れていて、マンションを過ぎたあたりで曲がるというのを分かっていますが、そこに看板はありません。

新年交礼会につきましては、45分程度で出し物が終わります。立食で食べるものがあまりなく、どちらかというと新年交礼会はPRの場ということです。

特に今年は、全て地元のものでした。お酒は福司、飲み物については大塚食品のポカリスエット、マッチ、オロナミンC。あとは東部漁業協同組合からの昆布、キクイモ、フキなどを出しております。新年交礼会は商工会議所と市が共催となっていますので、最初の部分をどのような形がとれるのか相談していきたいと思います。ただ、学生が頑張っているものは、みんなで聞いてあげた方が良いのかなという気持ちもあります。他にも、色々と細かい部分がありますので、商工会議所と相談していきたいと考えております。

【都市整備部長】

市長からのお話のとおり、鶴ヶ岱公園に曲がるところには看板があります。市民の方々は、もう一本過ぎてから曲がっていくのですが、そこは生活道路になっていますので、たくさんの車を誘導したくないという考えもあります。そういう面から言いましても、鶴ヶ岱公園のところから曲がっていただくのが一番良いかと思いますが、今一度看板を見直して、そこがきちんとわかりやすいようになっているか確認させていただきませう。また、来年度から市立病院の新棟建設が始まりますので、市立病院と市内でお話をさせていただきたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

【参加者C】

過去、釧路は日本一の漁港をもっていました。そのころ、私は船員でした。20代から30代にかけて、さかんに友達と「獲る漁業から育てる漁業」への転換を図らないと、将来は大変なことになるという話をしていました。

昔、教育長で青山さんという方がいたときに、釧路の高校の教育は、専門学校を増やしたらどうでしょうかという話をしていました。20～25歳の若者がこれからの釧路を造っていくわけですから、もっと若者の意見を積極的に聞くべきではないかと思ひます。

火力発電所については、湖南地区連合町内の会長も言っておりましたが、かなりの問題をかかえていると思ひます。火力発電所を建設することは良いのですが、建設する前に住民に対して言わなければならないことがたくさんあると思ひます。今も、沼尻公園付近の橋の工事を行っていますが、あそこは地盤がとてつ悪いです。そこを25トンのトラックが20分置きに通るといふ話を聞きました。そうになると、当然道路も傷み、振動・騒音も大きくなります。そういった問題も加味しながら、町内会と業者さんとの、公害が起きた場合の補償についての協定書のようなものを交わしたいと思ひていました。我々の町内会の顧問からの話では、市は必ず業者と公害防止協定を結ぶはずだといふことでした。そこで、この協定書の内容について、判子を押す前に、湖南地区連合町内会に開示・閲覧をしていただけないものでしょうか。

別の話になりますが、いずれにしても、1本の消火栓もないといふのは考えられないことだと思ひます。そこに1本消火栓があることによつて、住民の方々の安心感がでます。それから、春採2・3～6丁目にかけては、私道であり、道路幅が狭いため、先ほど消防長からお話があつたように、大型車が通れ

ない場所になっています。ですので、大型車が通れる市道の部分に1本消火栓をつけてほしいと思います。

【市長】

若者の意見をということ、今、まちづくりに向けて「わかもの△（さんかく）会議」という会議で、若者が色々と企画をしながら進めています。その他いろいろな会議等にも、若い方、女性の方含め、さまざまな方からご意見をいただいてまちづくりを進めているところであります。

今、若者が就職してから3年以内に離職する確率が、日本全体で45%、北海道では50%となっています。ただ、釧路市以外の場所で離職したあとに釧路にまた戻って来るという手もあるということですので、釧路市の会社の情報などをしっかりと届けるということが大事になってくるかと思えます。

火力発電所につきましては、道内では全て西側に設置されています。そういった意味でも、この東側の地域に発電の能力を持つということも様々なリスク管理のために必要であり、重要なことであると思えます。それゆえに、しっかりと対応していきたいと考えております。

【市民環境部長】

火力発電所の事業者とは、公害防止協定を結ぶということですので既に決めております。内容については、今おっしゃられた内容も含めて調整していきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

【参加者D】

当町内会では、80歳以上の高齢者が4月末時点で90世帯110人おりました。その中の独居者25人に対して、29年度の新事業として、年3回訪問する高齢者サポート事業を開始しました。これについては、役員が22名いますが、8班に分かれて5月22日から31日まで訪問しました。その中から、日常の中での緊急時に通報する手段はないのだろうかという声を多く聞きました。私も、釧路市のホームページ見て、緊急通報システムの設置事業があるということは分かったのですが、対象者の条件が、65歳以上の高齢者の場合は病弱な方あるいは発作的な病気をお持ちの方で、年齢制限がない場合は重度の身体障害者の方という条件がついております。この対象者の中に、80歳以上の高齢者の独居者を含めていただきたいという要望です。

【市長】

今、65歳以上の方は5万1,000人ほどおり、その中で独居者は1万1,000人ほどと聞いております。このような状況で、こういった形で安全・安心な状況をつくるかというのは、まさしく課題となっております。こういった形をとれるのかを福祉部とも相談・議論していきたいと思えます。町内会の中でそのような機能を持っていただいているというのは、大変力強いと思っております。

【参加者D】

特に夜中に必要になるという方が多いです。近くに息子や娘はいるのだけれど、自分ひとりで生活をしたい。ただ、何かあった場合にボタン1つでつながることができれば安心だということだと思います。

【参加者E】

町内会長さんからも言われましたが、ただ水揚げしたものをどんどん出荷しているだけでは、やがて終わる時代がくるので、何とかしなければいけないということは、以前から水産業界ではずいぶん言われていました。

私は、観光関係も大事だと思いますが、もう少し育てる漁業について進めて、水産分野でももう少し回復できないかなということを期待しております。

もう一つお願いしたいのが、津波避難の問題です。津波が来た際には、とにかく避難をすることが大事ですが、問題は避難する施設です。私の地区は春採生活館が避難場所になっています。ここは、約100名使用できるということで話を聞いておりますが、施設を確認すると、50名入れるか入れないかという程度です。備蓄については、毛布が10枚、ペットボトルが5本か10本かほど、非常食が30食ほどでした。いずれにしても、格納スペースが無い施設です。問題なのは、避難したあとの生活はどうなるのかということなのです。冬の間のために、せめて毛布ぐらひはもう少し備蓄していただけないでしょうか。

私が以前調べたところ、夜間急病センターには200枚ほどで、サンライフ釧路、城山小学校などの高台の方には毛布がまったくないということなのです。

避難した後の一時生活について、市はどこまで、どのような対応ができるのかをお聞きしたい。また、施設に入りきらない場合に、次の手段として春採中学校や望洋生活館、児童館など、どういう形で避難民を移動させるのかということについて、具体的にどこまで検討されているのかをお聞きしたい。

【市長】

避難所については、現実に道路が寸断された状況でどのような対応ができるのかを検討してきています。1つ大きなポイントとなるのが、災害が起きてから3日間、つまり72時間については、それぞれに対応をお願いしたいということです。公的な援助は行っていくと言っても、それがたどりつくまでに時間がかかります。まずは命を救うという観点で、3日間はそれぞれで備品等用意していただきたい。そこから先の運営については、市の方でしっかりと様々な対応をしていくという考え方になっています。国の方でも同様の方針です。

【参加者E】

まず、春採生活館に100人入ることは無理なので、入りきらない場合に別の施設に移すことは考えているのでしょうか。食べ物については、コンビニエンスストアで一時的に買えるにしても、毛布が10枚ほどでは、高齢者は耐えきれないです。

【市民環境部長】

私は3月まで防災を担当しておりましたので、お答えさせていただきます。

災害が起きた際には、命を守るため、施設内には入れるだけ入るということが第一に大切です。ただ、生活するためには狭い空間になりますので、そうなった場合には別の場所に移っていただくことになると思います。どこに移るのかなどの指示については、地域の防災の組織等もありますので、その方々に我々が対応をお願いすることもあります。

【市長】

春採生活館の中に入りきらない場合に、どこの施設に移動するのかというのは、当然誰かが指示する必要があります。では、誰が指示するのか。市役所の職員がそばにいる場合には、職員を中心に指示をしていくということになります。その他にも色々なケースが考えられると思います。

【参加者 F】

MOOをこれからどうしていくのでしょうか。中に入っている店舗もどんどん少なくなっていくと思います。

【市長】

現在あるMOOをどう有効活用していけばよいのかという議論がさまざまありました。プールを閉鎖したかわりに、避難所・体育館ができ、非常に多くの方にご利用いただいています。2、3階は、フリーWi-Fiが整備されていますので、例えば長期滞在の方が集ったりする場所にもなっています。クルーズ船が入ったときに、国際交流の会の方が着付けをする際に利用したりもしています。MOOに入っているお店の方々も、併せて色々な取り組みをしています。また、観光客の方々も、やはり最初にMOOに行きます。そういった意味では、多くの方々にご利用いただいていると認識しております。

今後も、皆さんの知恵をいただきながら、今ある施設を有効活用していきたいと思っております。

【参加者 G】

水道料金の値上げについてですが、うちの町内会は50%が年金生活となっています。周りの方々からは、もっと水の使用量を減らさなければという話が多く出ています。水道管を更新するのは理解できますが、改定率をもう少し圧縮していただけないのでしょうか。

もう一つは、カジノ構想についてです。やはり、一番心配なのがギャンブル依存症です。阿寒までわざわざ行って、やる人がいるのかとも思いますが、好きで行く方はいると思います。どうしてもカジノを釧路に持って来なければならないのでしょうか。

【市長】

ギャンブル依存症については、他の国に比べて日本は割合が高いと言われていています。私は、こういった部分も国の中で話をしてもらって、仕組みをつくっていくことが重要だと考えています。

カジノは、世界140か国に当たり前のようにあります。カジノは、人と触

れ合う社交の場です。日本の文化のような、勝負をしにいく場所ではありません。豊かな自然、アイヌ文化、食を楽しんでいただきながら、豊かな時間を過ごしていただきたいと思っています。カジノはあくまで、そのための一つの機能であると思います。ローカル型、リゾート型のIRを目指していきたいと思っていますので、カジノで儲ける気持ちはまったくありません。

さまざまな場で、この件については皆さんに説明をしていきますので、不明な点があればまた聞いていただければと思います。

【上下水道部長】

このたびの水道料金の改定につきましては、平成12年4月の改定以来、18年ぶりの改定案となります。なぜ水道料金の値上げが必要かということですが、人口減少により収益が落ち込んでいること、建設されて60年が経つ愛国浄水場の更新工事のため、そして、釧路市内の水道管の1,147キロのうち、現時点で約300キロの法定耐用年数である40年が過ぎる老朽管路があるためです。この老朽管をしっかりと補修しなければ、今後釧路市民の方々へ安全な水が届かないということになってしまいます。これらを踏まえて、今後の財政収支不足の解消と、老朽管路の更新をしっかりと行うための財政状況、財源の調整に努めていかなければなりません。

このたび提案している水道料金につきましては、今までは8トンの基本料金を皆さんに付与しておりましたが、これを無くします。1トンごとに使用した分の料金を加算していただく、ということになります。先ほど、老朽管路の更新が必要ということでお話しましたが、1,147キロのうち670キロの老朽管路がありますが、この更新をすると約1,500億円かかります。次世代の子ども、孫に将来のライフラインをしっかりと引き継ぐためには、今から老朽管路の更新をしていかなければなりません。基本料金が現在1,191円ですけれども、これに148円を上乗せさせていただいて、老朽管路の更新をさせていただきたいと思っています。

家事用水道料金1か月で見ますと、加算となる料金は0～8トンの方で、加算額が148～246円です。先ほどお話のあった独居の高齢者の方々はほとんど3～5トンの使用量になっています。10トン使用する方で、312円の加算です。20トン使用する方は643円の加算です。4人の家庭ですと、大体1カ月に使う量は20トンです。そうなると、加算額は643円となります。

将来世代の方々に公平な負担をしていただくためには、料金改定をこの時期に行うことが必要です。ご理解をいただきたいと思っています。

水道事業審議会の会議の中で、連合町内会や消費者協会、女性団体連絡協議会、水産協会などの代表の方と協議をさせていただいて、この料金改定案を提案させていただいたところであります。また、各団体の代表の方々に、事務局を通じて料金改定の説明をさせていただきたいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。